

優 秀 賞

青い地球を守るために

筑西市立下館中学校

二年 柳 田 結 衣

「水は貴重なので、ほぼ一〇〇パーセントリサイクルです。おしっこも蒸発させて、水だけ再利用しています。」これは、宇宙飛行士の野口聡一さんが宇宙ステーションから宇宙に滞在している間の生活をレポートしていたなかでの話です。私はこの事実にびっくりしてしまいました。なぜなら、世界最高クラスの科学技術や知識が集結した宇宙ステーションなら、理科の実験のように「水」を簡単に生成できると思ったからです。そして、野口さんが宇宙ステーションから青い地球をみながら「地球は本当に美しいですよ。」と何度も言い、最後に「大事に守っていかねければならないと思います。」と言っていたことがとても印象的でした。

このことをきっかけに、地球や水について調べてみました。地球の地表の三分の二が水であること。しかし、その水のほとんどが海水で、淡水はわずかに二・五パーセントその淡水の七〇パーセントが南極や北極の氷、地表から深いところにある地下水で、私たちが実際に使える川や湖の水資源は、地球上全体の水のほんの〇・〇一パーセントしかないことが分かりました。数字だけではあまりピンときませんがお風呂いっぱいの水を地球全体の水とすると、私たち人間が使える水は、たった大さじ一杯ほどです。普段、何気なく使っている水が実はとても貴重なものだ実感しました。時々、お風呂のお湯をうっかりあふれさせてしまい母から「もったいないつ！」としかかられている私はこのことを知って「本当にもったいないことをした。」と心から反省しました。

私が生活で使っている水は、三十キロ以上離れた霞ヶ浦から引かれています。私は小学生の時に「霞ヶ浦湖上体験」で「水」について学びました。湖に生息するプランクトンを含む生物の生体系のバラン

スが崩れるとアオコが発生して、湖にすむ魚が死んでしまったり、イヤな臭いを発生して、私たちが使う水にも影響することを知りました。遊覧船から見た霞ヶ浦は、決してきれいとはいえない水で生臭いような臭いもして、「この水を飲んでいる」とは思いたくないものでした。湖の水がゴミや生活排水で汚れた水をきれいにするのに重要な役割をするプランクトンが年々減っているそうです。

きつとこのことは、霞ヶ浦だけでなく、他の川や湖でも同じではないかと思えます。源流から湧き出た清らかな水が山を下り、私たちの生活圏を流れるうちに、私たちが出すゴミや生活排水によって知らず知らずのうちに水を汚してしまっているのだと思います。人間だけでなく、地球上に生息する生物は水が無くては生きられません。水を汚すことは、自然を汚すこと、自然破壊にもつながると思えます。それは、自然本来のサイクルを壊してしまい世界的に問題になっていく地球温暖化による異常気象など、とり返しつかないことになってしまうのではないのでしょうか？

貴重な資源である水のために、私に何ができるだろうと考えました。洗顔や歯みがきのときに水をだしっぱなしにしない、お皿やフライパンなどの油はキッチンペーパーなどでふいてから洗う、シャンプーや洗剤の使う量を最小限にする、トイレの音消しのために水を流さない、そしてお風呂をうっかりあふれさせない、などです。ほんのささいなことも、毎日の積み重ね、継続することが大切だと思います。

現在、人類が生きられるのは、「水」が存在するこの地球だけだそうです。唯一無二のこの青く美しい地球を守るために、身近だけでも必要不可欠な「水」を大切にすることから始めたいと思います。そして、私の子どもや孫たちに繋いでいきたいです。